

令和4年度事業報告について

I はじめに

当事業団は「児童福祉法及び身体障害者福祉法ならびに医療法に基づき、身体障害児・者の自立更生を援護し、社会参加を促進するため、そのニーズに応じて、相談・判定・治療・機能回復訓練及び職能訓練、さらに文化、スポーツ活動など所要のサービスを体系的なプログラムと一貫した体制のもとに提供し、身体障害児・者のリハビリテーションを実現すること」を目的とした香川県身体障害者総合リハビリテーションセンターを運営するために、香川県により昭和61年3月に設立された。平成18年4月にかがわ総合リハビリテーションセンターの指定管理者に指定され、成人支援施設、福祉センター、こども支援施設、療養介護施設、こども発達支援センター、リハビリテーション病院の管理運営を行っている。また、平成29年4月には香川県障害者支援施設たまも園の新たな指定管理者に指定された。

施設名	施設名（個別）	指定管理開始時期
かがわ総合リハビリテーションセンター	成人支援施設	平成18年4月
	福祉センター	平成18年4月
	こども支援施設	平成18年4月
	療養介護施設	平成20年4月
	こども発達支援センター	平成24年4月
	リハビリテーション病院	平成18年4月
香川県障害者支援施設たまも園		平成29年4月

令和4年度は、第3期指定管理期間（令和2年度～令和8年度）の3年目であり、県との包括協定に則り各施設の適正な管理運営に努めた。

新型コロナウイルス感染症への対応については、令和2年度に設置した新型コロナウイルス感染症対策本部を中心に、「利用者と職員の健康と安全を守る」と「感染防止対策を徹底したうえで出来るだけ業務を継続する」を基本に、感染状況に応じて感染防止対策に工夫を凝らしながら事業の継続に取り組んだ。

経営の改善については、利用者増加に向けた取り組みの実施、職員の採用の抑制（欠員不補充）やコンサルティング会社を通じて業務委託費や材料費など費用の削減に努めた。しかし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大で、度重なるクラスターが発生したことによる利用者の減少や物価高騰による経費が増加したこともあり経営状態がさらに悪化した。

(1) 理事会及び評議員会等の開催状況

ア 理事会（令和4年度実施5回）

第112回理事会 令和4年6月10日

- ① 令和3年度事業報告について
- ② 令和3年度収支決算について
- ③ 評議員会の開催について

(報告事項)

- ① 資金の運用状況について
- ② 令和3年度工事・修繕について
- ③ 資金の法人内繰入について
- ④ 資金の法人内貸付について
- ⑤ 育児・介護休業法改正について

第113回理事会 令和4年9月28日（決議の省略）

- ① 育児・介護休業に関する規程の一部改正について
- ② 貸金規程の一部改正について

第114回理事会 令和4年11月18日

- ① 貸金規程の一部改正について
- ② たまも園生活支援システムの更新について
- ③ 積立金の取崩しについて
- ④ 令和4年度第一次補正予算について

(報告事項)

- ① 理事長及び業務執行理事の職務執行状況について
- ② 新型コロナウイルス感染症支援事業について
- ③ 資金の法人内貸付について

第115回理事会 令和5年11月30日（決議の省略）

- ① 再雇用に関する規程の一部改正について

第116回理事会 令和5年3月24日

- ① 組織規程の一部改正について
- ② 再雇用制度に関する規程の一部改正について
- ③ 管理職員等の範囲を定める規程の一部改正について
- ④ 育児・介護等に関する規程の一部改正について
- ⑤ 貸金規程の一部改正について
- ⑥ 職能資格等級規程の一部改正について
- ⑦ 役職規程の一部改正について

- ⑧ 事務決裁規程の一部改正について
- ⑨ 個人情報の保護に関する規程の廃止について
- ⑩ 積立金の取崩しについて
- ⑪ 令和4年度第2次補正予算について
- ⑫ 令和5年度事業計画について
- ⑬ 令和5年度収支予算について
- ⑭ 施設管理業務・ボイラ等運転管理業務・守衛業務・警備業務委託について
- ⑮ かがわ総合リハビリテーションセンター清掃等業務委託について
- ⑯ かがわ総合リハビリテーションセンター医事業務委託について
- ⑰ 香川県障害者支援施設たまも園設備保守管理業務委託について
- ⑱ 評議員選任・解任委員の選任について
- ⑲ 役員候補者の推薦について
- ⑳ 評議員会の開催について
- ㉑ 役員等賠償責任保険契約の締結について

(報告事項)

- ① 令和4年度資金の法人内貸付について
- ② 資金の法人内貸付 年度内精算について
- ③ 令和5年度資金の法人内貸付について
- ④ 施設整備等積立金の取崩しについて
- ⑤ 理事長及び業務執行理事の職務執行状況について
- ⑥ 新型コロナウイルス感染症支援事業について

イ 評議員会 (令和4年度実施2回)

第50回評議員会 令和4年6月29日

(報告事項)

- ① 令和3年度事業報告について
- ② 令和3年度収支決算について

第51回評議員会 令和5年3月30日

- ① 役員を選任について

ウ 評議員選任・解任委員会 (令和4年度実施0回)

(2) 経営戦略等に関する会議（経営会議）の開催状況

- ・第 1 回 令和 4 年 4 月 25 日
- ・第 2 回 令和 4 年 5 月 23 日
- ・第 3 回 令和 4 年 6 月 27 日
- ・第 4 回 令和 4 年 7 月 25 日
- ・第 5 回 令和 4 年 8 月 22 日
- ・第 6 回 令和 4 年 9 月 26 日
- ・第 7 回 令和 4 年 10 月 24 日
- ・第 8 回 令和 4 年 11 月 28 日
- ・第 9 回 令和 4 年 12 月 26 日
- ・第 10 回 新型コロナウイルス感染症対策のため中止
- ・第 11 回 令和 5 年 2 月 27 日
- ・第 12 回 令和 5 年 3 月 27 日

(3) 職員の採用・離職状況

令和 4 年度は、歯科医師、コメディカル、看護師、生活支援員、事務職等の欠員補充による正規職員 18 名と、中途退職者の欠員補充や産休代替により、合計 44 名の採用を行った。また、正規職員 33 名を含む 59 名が退職をし、そのうち 11 名が定年を迎えたことによる退職であった。なお、定年退職者のうち 8 名が定年後も継続勤務している。

令和 4 年度に実施した職員採用試験（令和 5 年度採用職員）では、欠員補充を中心に 17 名が試験に合格、1 名内定辞退を除く 16 名を採用し、募集人数をはばっちりすることができた。

また、併せて総合職への正規登用試験を実施し、リハセンターの指導・支援職 1 名が合格した。

<職員の任免>

	正規職員	嘱託職員	臨時職員	合計
令和 4 年 4 月 1 日職員数	377	74	38	489
うち令和 4 年 4 月 1 日採用者数	16	3	2	21
令和 4 年度途中採用者数	2	6	15	23
令和 4 年度退職者数	33	16	10	59
うち令和 5 年 3 月 31 日退職者数	21	11	6	38
令和 4 年度末日職員数	367	75	49	491

II 事業所別報告

【かがわ総合リハビリテーションセンター】

1. 成人支援施設

障害者総合支援法に基づく自立訓練（機能訓練・生活訓練）、就労移行支援と施設入所支援を行う障害者支援施設として、障害者の地域移行と就労に関する支援内容の充実と事業間の連携に努めた。引き続き、就労定着支援、短期入所事業、日中一時支援事業を実施した。

(1) 利用状況

利用開始者 機能訓練 17名 生活訓練 3名 就労移行支援 13名 計 33名

利用終了者 機能訓練 18名 生活訓練 8名 就労移行支援 17名 計 43名

(2) 訓練・支援状況

【日中活動】

① 自立訓練（機能訓練）

利用人員：定員 36名 月平均実利用者 25.5名（1日当たり平均利用人数 17.5人）

対象者：身体障害者、難病者

内容：身体や認知機能の維持向上、日常生活動作や家事・外出能力等関連する能力の向上、趣味の開発、活動力や体力アップなどに向けた様々な訓練を行うことで、地域で自立した日常生活、社会生活ができるよう支援した。特にプログラムの一つである学習会を見直し、テーマや内容をマニュアル化して実施した。また、家屋改修やホームヘルパーの利用、日中の通い場所の確保等の調整を行った。その結果、入所の利用終了者 10名中、6名が家庭復帰した。通所を含む機能訓練利用終了者 18名中 1名が就労移行支援の利用に事業変更となり、2名が復職し、1名が就職した。

昨年引き続き、新型コロナウイルス感染症対策の一環として、入所利用者と通所利用者が日中のプログラムや食事場面で接触することがないように、プログラムの実施場所や食事場所を分けた。職員も引き続き入所対応と通所対応に分けて、接することがないようにしてプログラムや食事の提供を行った。

② 自立訓練（生活訓練）

利用人員：定員 20名 月平均実利用者数 10.0名（1日当たり平均利用人数 6.8人）

対象者：高次脳機能障害者、発達障害者

内容：高次脳機能障害者を対象に、認知機能や日常生活能力の向上、社会生活への適応力を身につけられるよう支援した。また、家庭での過ごし方や日中の通い場所の確保等の調整を行った。一般就労の可能性が出てきた方に対しては、就職に向けた支援を行うことや当施設の就労移行支援の利用につなげた。また、下半期より、発達障害者に特化した就労準備性を高めるための訓練・支援を開始した。その結果、入所の利用終了者 2名ともがグループホーム・その他地域生活となった。通所を含む生活訓練利用終了者 8名中 3名が就労移行支援の利用に事業

変更となるとともに、2名が就労継続支援B型の利用につながった。また、今回の結果を基に、発達障害者を対象としたプログラムの充実を図るために内容の再編を行った。

新型コロナウイルス感染症対策としては、機能訓練と同様のことを実施した。

③ 就労移行支援

利用人員：定員 24 名 月平均実利用人数 22.7 名 (1 日当たり平均利用人数 16.0 人)

対象者：身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病者

内 容：一般企業等での就労を目的に、パソコン等の事務的作業や軽作業・掃除等の職業技術訓練や、職業マナーや対人スキルの獲得、体力づくりのための訓練を実施した。また、公共職業安定所や障害者就業・生活支援センター、発達障害者支援センター等と連携し、支援制度を活用しながら実習等を積極的に取り入れた。その結果、利用終了者 15 名中、11 名が一般就職につながった(うち復職 2 名)。

なお、新型コロナウイルス感染症対策の一環として、リモート等による在宅訓練を実施したことが、利用者の自宅での自主訓練の習慣化に繋がった。

リモート等による在宅訓練実施のメリットとしては、①利用日を減らすことなく運営できた ②コロナ禍で就職先でも在宅勤務を求められることがあり、その練習を行うことができた ③在宅勤務において、規則正しい生活や勤務時間等の自己管理の大切さや難しさが分かった等があった。

デメリットとしては、①就労移行支援は原則 2 年間という期間がある中、予定していたプログラムが受けられず技術や能力の習得が滞っているという声があった ②自己管理が難しい利用者は生活リズムが乱れた ③外出機会が極端に減り、特に身体障害、高次脳機能障害のある利用者は身体能力や認知機能の衰えが認められた ④コミュニケーションの機会が極端に減り、精神的に不安定になる利用者がいた等があった。

日中活動全体の利用人数:定員 80 名 月平均実利用人数 58.2 名 (1 日当たり平均利用人数 40.4 人)

④ 就労定着支援

利用人員：令和 5 年 3 月末現在 利用者 (在籍者) 21 名

対象者：身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病者

内 容：自立訓練、就労移行支援等を利用して一般就労した障害者の就労の継続を図るため、各機関との連携をはかりながら、相談・指導・助言等を実施した。

⑤ 施設入所支援

利用人員：定員 40 名 月平均実利用人数 24.0 名 (1 日当たり延べ人数 22.2 人)

対象者：身体障害者

内 容：通所利用が難しい利用者には、訓練期間中の夜間の生活の場を提供した。また、生活の中で入浴、更衣、トイレ等の自立に向けて支援した。

⑥ 短期入所サービス、日中一時支援事業

利用人員：年間利用者(延べ数) 短期入所 30名 日中一時支援 41名

対象者：身体障害者

⑦ 新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症対策のため、手指消毒の徹底や毎日の検温、訓練室の密にならない定員設定、テーブルの仕切り設置、食堂の利用時間の分散化等を行った。

また、感染者発生時の対応マニュアルの作成、手指消毒、ガウンテクニック等の研修やシミュレーション訓練等を継続して実施した。また、新型コロナウイルス感染予防啓発のため、不要不急の外出を控える旨の手紙を月1回程度のペースで利用者やその家族に渡して注意喚起した。

2. 福祉センター

障害者の社会参加促進を目的にスポーツ・文化教室や大会の開催、支援関係者や一般県民への研修・啓発や障害者と健常者の交流を目的とした事業を実施した。また、出前講座や訪問支援の実施、発達障害者や高次脳機能障害者への専門的相談支援や普及活動、障害者全般への相談支援や相談体制の整備を継続実施した。

新型コロナウイルス感染症対策は、ガイドラインおよびセンター方針に基づいて、環境整備、利用定員の変更や利用条件の見直しを行い、変更・追加の都度、利用者・団体等に周知した。

(1) 社会参加促進、地域交流事業

①施設貸館事業

研修室・会議室・調理実習室等の文化施設と体育館、プール、グラウンド、アーチェリー場等の体育施設、つどいの部屋、福祉バス等の貸館を行った。インターネット予約が定着し、感染症防止対策のタイムリーな周知にも役立てられた。

②主催事業（企画・派遣事業等）

内 容

a. 文化事業

- ・障害者・高齢者を対象とした油絵や園芸、eスポーツ体験会など新たな文化教室の開催、同好会化支援、作品展示コーナーの常設、県内外のコンテストの情報提供やとりまとめ等を実施した。当事者の社会生活力向上を目的とした社会生活力講座は、支援センターたかまつ、基幹相談支援センターと共に企画・運営を実施した。「瀬戸内国際芸術祭 2022 秋会期」の最終日に開催される「香川県障害者芸術祭 2022 キラリ☆と光る芸術祭」の実行委員会としてアートボランティア養成講座および作品展を企画・実施した。

b. スポーツ事業

- ・障害者・高齢者を対象とした各種スポーツ教室、例年の種目（卓球・卓球バレー・ボッチャ・水泳・グラウンドゴルフ）に新たにサッカーを加えた大会の開催、関係団体支

援、障害者スポーツ指導員育成、地域事業では受託として三豊市・観音寺市・丸亀市・坂出市の各市へ、共催として東かがわ市に加え新たに綾川町、小豆島町への事業を実施した。今年度も感染症拡大防止対策により、リハビリテーションセンター東病棟、こども発達支援センターや、各市からの委託事業が中止もしくは延期により回数減となった。パラスポーツ普及・啓発では、映像 3 本を作成し日本パラスポーツ協会ホームページにおいて公開された他、障害者スポーツ協会をバックアップし、県内の全特別支援学校等へのパラスポーツ用具の設置・利用講習を実施した。

c. IT活用支援・福祉用具相談事業

- ・福祉用具展示相談事業「くらし快適館」（香川県受託）では、幅広い対象者に、福祉用具の展示・体験、研修、啓発、相談支援を実施した。
- ・IT活用支援（香川県受託）では、教室の開催、個別相談・支援、パソコンボランティアの育成・派遣、他施設等への支援を実施した。
- ・自動車運転再開支援は、地域の自動車教習所等の協力を得て、成人支援施設・リハビリテーション病院と連携し取り組んだ。
- ・香川県障害福祉相談所が行う意思伝達装置判定、補装具判定完成診、巡回相談に協力した。

d. 在宅就業支援事業

- ・在宅ワーカーの指導・育成、受注業務等の調整、一般啓発研修等を行った。一般啓発研修はオンラインにて実施し、「障がいのある方の全国テレワーク推進ネットワーク」の中で、関係機関との情報交換を行った。かがわ ICT テレネットにおける「障害者芸術祭 2022」の記録・紹介動画作成会議に適宜参加し、連携を支援した。

e. 研修・啓発事業

- ・学校や地域住民、民生・児童委員等へのセミナーの開催、関係者向け研修、支援者・ボランティアの育成、講師派遣等を感染症拡大防止対策を講じ、一部オンラインで実施した。主催・派遣依頼ともに感染症拡大状況により中止・変更があいつぎ、計画変更を余儀なくされた。

f. 交流事業

- ・感染症対策として、クリスマス会はカード郵送とした。コンサート・レクレーション企画では高松市デリバリーアーツ事業を小規模で協働実施し、会場参加できないセンター内施設へはオンライン配信を行った。

g. 発達障害者の居場所づくり事業

- ・地域支援拠点での居場所事業開催に向けたモデルづくりとして、16 歳以上の診断のある方を対象にした「虹の会」、中高生を対象にした「ゆったりカフェ」を実施した。

③利用状況

新型コロナウイルス感染症対策として、一般利用を中止し、香川県の状況に応じて、貸館、主催事業、派遣事業等について各ガイドラインに沿った十分な感染症対策と環境を整え、必要に応じて規模の縮小や実施形態を工夫し実施した。

貸館・企画事業での施設利用状況は、体育施設 16,092 人、文化施設 24,989 人、福祉バス 1,250 人であった。（前年度比 121.8%）（表 1 参照）

貸館事業及び地域実施を含めた主催事業での対象者総数は、延べ 50,947 人（前年度比 130.0%）と増加したが、感染症拡大の影響前の令和元年比は 60.0%と、利用控えや規模縮小による影響は続いている。（表 2 参照）

主催事業は、対象者数は 12,668 人（前年度比 170.0%）と前年から顕著に増加したものの、令和元年比 80.1%であり、貸館ほどではないが利用控えや規模縮小による影響は続いている。（表 3.4 参照）

(2) 相談支援

①香川県発達障害者支援センター『アルプスカがわ』

平成 19 年 4 月に香川県より委託を受け、発達障害児（者）に対する支援を総合的に行う地域の拠点として事業を実施している。事業は、発達障害をもつ当事者とその家族に対する直接相談などの支援、地域住民等に対する普及啓発、関係施設及び関係機関に対する普及啓発及び研修、関係施設・関係機関等との連携及びネットワークの構築等となっている。

平成 26 年からは、「より身近な地域」で支援が受けられる体制づくりのために、「香川県発達障害者地域支援体制強化事業」を受託して、各市町や法人など地域の支援機関に対する支援を行っている。また、保健・教育の仕組みが充実している幼児～学齢期に比べて、青年～成人期の当事者の相談体制が整っていないことに対して、平成 27 年度より、支援体制整備や窓口設置、巡回相談等に取り組んできた。

令和 4 年度、当事者や関係者に対する直接支援は、発達障害児（者）265 名に対して延べ 729 件の支援（医学的診断や調整会議等を含む）を実施した。また学校等の地域の機関に対するコンサルテーションを計 112 回実施した。

地域住民等に対する普及啓発は、講演会の開催や啓発パネルと関連図書の展示などを計 26 回実施した。

関係施設及び関係機関に対する普及啓発及び研修は、研修会の主催を計 19 回（参加者 867 名）、外部団体が主催する研修会への講師派遣を 73 回（参加者 2,498 名）等を実施した。

関係施設・関係機関等の連携は、連絡協議会主催を 17 回、自立支援協議会への参加を 32 回、そのほかの関連する連絡会議等への参加を 62 回行った。

また、香川県発達障害者地域支援体制強化事業において、地域支援マネージャーとして県内の市町や事業所の支援体制整備の取り組みを支援するために計 22 回の訪問支援を実施した（研修・会議等に関しては、本体事業にまとめた）。

成人期発達障害者の支援体制を整備するための取り組みとして、成人の発達障害の相談窓口を周知するためのリーフレット『最近よくきくおとなの発達障害って何なん？』を令和 3 年度に配布し、各市町と協力して「発達障害をもつ青年成人の巡回相談」を実施している。令和 4 年度は、善通寺市・丸亀市・綾川町・坂出市・宇多津町・琴平町・まんのう町・直島町・小豆郡・多度津町・三豊市で合計 18 回行った。また、「どこでもセミナー・どこでもサポート」のチラシを配布し、事業所や学校からの要望に基づいて 90 回の講師派遣や機関コンサルテーションを行った。

また、令和 3 年度から開始した、支援者対象のアンケート調査（成人・小児）の結果を基に、支援者対象の業種別研修を検討し、行政窓口担当者向けの試行研修を行った。

②香川県高次脳機能障害支援普及事業

平成 19 年 7 月より、香川県より委託を受け事業を実施している。近年は、支援方法が個別支援から間接支援へと移行しつつあるが、コロナ感染症の影響を受け、機関からの相談が減少している。

a. 相談支援事業

・相談窓口設置・支援コーディネーター 4 名配置 相談実人数 71 名、延べ相談件数 349 件

b. 普及・啓発事業

・高次脳機能障害講演会（R5. 3. 19 Zoom で実施）

当事者で、白血病の薬剤治療後遺症で高次脳機能障害となった、シンガーソングライターで、時の母である、大川らとと氏と心の母による講演を実施。12 名参加。

・日本損害保険協会助成事業 香川脳外傷リハビリテーション講習会（R4. 11. 27 ハイブリッド実施）
「高次脳機能障害の理解と支援」

1. 映画上映「いのち見つめて」

2. 座談会（医師、ST、日本友の会会長、かがわ友の会会長）

99 名参加（会場 32 名、WEB67 名）

・高次脳機能障害支援関係職員研修会（基礎）を 2 回、事例検討会を 1 回実施。

参加者延べ人数 78 名

・図書館等啓発活動（高松市中央図書館）で障害に関するパネル、関連図書等展示をした。

（R4. 12. 6～18）

c. 支援ネットワーク構築事業

・令和 4 年度 支援コーディネーター全国会議参加 年 2 回（Web 会議）

・令和 4 年度 高次脳機能障害支援普及全国連絡協議会参加 年 2 回（Web 会議）

・令和 4 年度 高次脳機能障害支援普及事業四国ブロック会議参加（書面会議）

- ・ケア会議等の参加、研修講師、電話等でのコンサルテーションを、延べ175回実施した。
- ・当事者、家族会へ参加（6回）し、会の企画や運営に関わった。

d. かがわ高次脳機能障害支援センターの開設準備

- ・令和5年度の開設に向け、準備WGを毎月、コア会議を3ヶ月に1回開催し、準備を進めた。

③障害者生活支援センターたかまつ

高松市、三木町、直島町から委託を受けて、障害者やその家族が地域で自立した生活が送れるよう支援する事業を実施した。高松圏域自立支援協議会の運営や香川県自立支援協議会への参画、障害者生活支援センター連絡会への参加を通じて、関係機関・関係者との連携を図り、支援の質の向上や、地域の支援体制整備に努めた。

また、従来の委託相談支援事業に加えて、平成24年度より高松市の指定を受け「指定特定相談支援事業（対象児・者がヘルパーや短期入所などの障害福祉サービスを利用する際のサービス等利用計画作成業務）」「指定一般相談支援事業（障害者支援施設や精神科病院等に入院・入所している対象児・者の地域移行・定着のための支援業務）」「障害児相談支援事業（18歳未満の児童が通所サービス等を利用する際の障害児支援利用計画の作成業務）」を実施している。

平成30年度から、高松市から委託を受け、高松市障がい者基幹相談支援センター（地域拠点）の運営を開始した。主な業務としては、担当地域（鶴尾・太田・太田南・弦打・鬼無・香西・下笠居）のすべての障害に関する総合的・専門的な相談を受け、情報提供・助言、既存の関係機関等との連携・調整等を行っている。4年度は、ネットワーク会議だけではなく、地域のイベントに積極的に参加し、地域住民の中に入っての関係作りを力を入れた。地域のネットワーク会議には24回参加した。個別相談実人数は184件であり、地域拠点の個別支援件数については毎年増加傾向である。

すべての相談支援事業の件数は、延べで6,022件、月平均では502件であり、昨年とほぼ同じであった。

④高松市障がい者基幹相談支援センター中核拠点

平成30年4月より高松市から委託を受け、高松市障がい者基幹相談支援センター中核拠点の運営を開始し、5年が経過した。事業は、高松圏域自立支援協議会等を活用して、高松市全域の相談支援体制の整備を行う事業と地域の関係機関（地域包括支援センターや地区社協等）や地域住民と連携して実施する担当地区（松島・築地・新塩屋町・四番丁・二番丁・日新・亀阜・男木・女木地区）の相談支援体制の整備を行う事業、担当地区及び市外に居住されている障害者の個別支援を行う事業に大別される。

相談支援体制整備の具体的な内容として、「総合的・専門的相談支援体制の構築」「特定相談支援事業所立ち上げ支援及び後方支援」「相談支援専門員の人材育成」「地域移行の促進」「権利擁護・虐待防止」「アウトリーチの手法の確立」「ピアサポート活動の促進」「社会資源の開発・社会生活力向上に関する取り組み」「地域生活支援事業の整備」があげられる。

令和4年度の個別支援における相談件数は、新規相談者が264件(昨対106.5%)、紹介元を分析すると、障害福祉関係機関が最も多く、全体の48.9%を占めている。それに対して、高齢福祉分野・保健・地域住民からの紹介は、それぞれ5%を切っている。次に、実人員では、年間合計で1,222人(昨対比117.5%)、月平均では101.8人となっている。障害種別では、精神障害者の実人数424人(34.7%)、知的障害者245人(20.0%)、身体障害者142人(11.6%)、発達障害者204人(16.7%)となっており、昨年度と比較すると精神障害者、発達障害者の相談件数の伸びが顕著である。

3. こども支援施設

医療法に定める病院であるとともに、児童福祉法に定める医療型障害児入所施設であり、入所定員は25名である。四肢・体幹の機能に障害のある児童を治療するとともに、あらゆる面での援助に努めた。

現在の入所児数は10名である。年度内に、1名の入所、1名の退所があった。退所先は、障害児入所施設であった。入所児数は、全国的に長期的に徐々に低下傾向である。

利用児のうち、契約制度による入所児が約半数、児童相談所等により社会的養護を必要とする判断されて措置入所した児が約半数であった。今年度は、児童相談所からの緊急一時保護受託はなかった。家庭・学校・関係機関との連携を十分に図った。措置入所・一時保護への対応力強化が必要である。

(1) 入所(東病棟)

入所児の年齢・障害の程度や入所期間は様々である。身体障害が重度である児童や、知的障害・てんかん等の精神障害・そしゃく機能障害等を合併している児童が大半を占め、医療依存度、生活面での介護度が高く入所期間が長期化することも多い。児童の健康管理に努めるとともに、児童の情緒、自主性、協調性の向上に努めた。また、外出、おやつ作りなど多くの経験を積み重ねられるように努めた。

新型コロナウイルス感染症対策について：入所児は医療的管理を日常的に要する児、とくに新型コロナウイルス感染症が重症化・重篤化しやすいとされる呼吸器疾患を合併している入所児が約半数を占めており、体調管理に努めるとともに、病原体を持ち込まない対策、拡散を防ぐ対策に努めた。授業実施と感染防止については、高松支援学校(高松養護学校)との連携を図り、治療や教育の効果が上がるように努めた。

新型コロナワクチンについては、御本人・親権者の希望に沿って接種を進めた。年度末の時点で、利用児10名中、接種を希望した6名が3回目または4回目の接種を終えたが、4名については御本人・親権者がワクチン接種希望を望まなかった。

自立支援、特に地域生活への移行のための外泊・外出等への支援については、新型コロナウイルス感染症対策のため、控えていただいた。

入退所（院）の状況		
入所・入院	4名	退所・退院 4名
3月31日現在の契約者	10名	（定員 25名）

(2)短期入所・日中一時支援事業（東病棟）

日中一時支援事業・短期入所事業は空床利用であるが、新型コロナウイルス感染症対策のため、利用を控えていただいた。養護者の入院などに伴う利用希望については、入所での対応も案内した。

短期入所・日中一時支援事業の状況		
短期入所 延べ	0名	
日中一時 延べ	0名	

4. 療養介護施設

医療法に定める病院であるとともに、障害者総合支援法に定める療養介護施設であり、入所定員は 35 名である。対象者は 18 歳以上の常時の介護と長期の入院による医療的ケアを必要とする重症心身障害者で、障害支援区分が 5 以上の方である。病院において行われる機能訓練、療養上の管理、看護、医学的管理下で行われる介護、日常生活支援を行っている。

施設利用は障害者総合支援法に基づき契約制度で運用している。施設入所と短期入所・日中一時支援サービスがある。

(1)入所（東病棟）

身体能力及び日常生活能力の維持と向上・二次障害の予防・疾病の治療・生活の質（QOL）の向上を目標に個別支援計画を立て、支援を行った。食事、入浴などの介護の提供、レクリエーション活動などの社会参加活動支援、声かけや聞き取りなどのコミュニケーション支援を実施した。

また、家族との密な連絡と交流が持てるような配慮に努めるとともに、支援内容に関する関係機関との連絡調整を行った。

入所者は、医療的管理を日常的に要しており、とくに、新型コロナウイルス感染症の発生時には重症化・重篤化しやすいとされる呼吸器疾患を合併している入所者が大半占めており、体調管理に努めるとともに、感染防止のため、外泊・面会の制限をお願いした。

新型コロナワクチンについては、親族等により御本人がワクチン接種を望んでいるとされた利用者（28名中25名）が接種を終えている。3名については、御本人がワクチン接種希望を望んでいないと親族等から申告されており、現時点では接種の予定はない。

今年度は、1名の入所（こども支援施設から1名）があり、入所者数は1名増加した。平成30年の増床前に20名であった入所者数は、現在28名に増加しており、今後も在宅障害者の家族の高齢化等に伴う入所者数の増加が見込まれることから、スタッフの確保・指導育成が必要である。

入退所（院）の状況

入所・入院 1名 退所・退院 0名
3月31日現在の契約者 28名（定員35名）

(2)短期入所・日中一時支援事業（東病棟）

日中一時支援事業・短期入所事業は空床利用であるが、新型コロナウイルス感染症対策のため、利用を控えていただいた。養護者の入院などに伴う利用希望については、入所での対応も案内した。

短期入所・日中一時支援事業の状況

短期入所 延べ 0名
日中一時 延べ 0名

5. こども発達支援センター

児童福祉法に定める通所定員35名の医療型児童発達支援センターである。医療型児童発達支援、すなわち、上肢、下肢または体幹の機能の障害のある児童に対する児童発達支援（日常生活における基本的な動作の指導、知識技能の獲得、集団生活への適応訓練等）及び治療を提供した。

年度末の契約者数は14名であり、年度途中に3名増加し、年度末に2名卒園した。

在宅障害児の日常生活を支援するうえで、通所支援の役割は重要である。特に乳幼児期においては早期療育の場でもあり、家族にとっては障害受容や他家族との交流の場でもある。医療・看護・福祉等の機能を活用して幅広く対応した。

幼児の年齢・発達や障害に応じた保育形態をとり、保護者と児童に生活リズム・体力づくり・基本的な生活習慣の確立へ向けて援助を行った。また親子分離保育、個別食事指導を実施したほか、就学の準備なども行った。

通所児の多くは、呼吸器系の合併症を有しており、新型コロナウイルス感染症重症化のリスクが大きい。クラスター防止のため、体調把握・感染防止に努めた。新型コロナウイルス感染症の発生に伴う施設の閉鎖はなかったが、保護者に対して、電話による連絡、情報提供等を頻回に行い、かがわ総合リハビリテーションセンターの新型コロナウイルス感染対策を確実に実施した。

保育所等訪問支援（地域の保育所または知的障害・視覚障害特別支援学校などの幼稚部と併用利用中の児の併用先への訪問）、障害児相談支援等の地域支援については、下半期に14件実施した。新型コロナウイルス感染症対策のため、文書での情報提供、電話等での相談支援も行った。

入退園の状況

入園 3名 退園 2名
3月31日現在の契約者 14名（定員35名）

6. リハビリテーション病院

医療法に定める病院として障害児・者、高齢者を含めた一般患者の疾病・外傷の治療を行っている。医療の質、患者サービス向上のため病棟入院患者に対して休日、祝日にもリハビリテーション治療を提供している。外来診療では専門ないし特殊部門として装具診療、心臓リハビリテーション、ロービジョン外来、補聴器外来、ボトックス外来、ポリオ外来等がある。

今年度も高齢化社会への対応と安定した患者数の確保のため、幅広い年齢層を受け入れることに重点をおき、急性期病院との連携強化を課題としてきた。しかし新型コロナウイルス感染症（第7波および第8波）への対策の影響により、急性期病院地域連携室への訪問、患者の訪問診察など病院間の移動制限等が続き達成が不十分となった。急性期病院からの紹介患者数は総じて回復傾向に転じている。一方、病床稼働率は病棟ごとに変動し、全体として減少傾向が続いた（図2）。これは入院患者または看護師、リハビリテーションスタッフ等病棟職員に新型コロナウイルス感染が発症、特にクラスターが発生した時、その都度病棟単位で入退院を制限したことが大きな要因である。この時には入院患者に提供するリハビリテーション医療の訓練的な量・質の低下に加えて、家庭復帰支援サービス（家族指導、家庭訪問、試験外出泊等）にも影響を及ぼした。

外来では患者、職員の安全確保から新型コロナウイルス感染症対策を継続してきたが、特別な受診の制限はしていない。患者の外来受診控えはなくなったと思われる状況であり、患者数はコロナ禍の影響がなかった令和元年度比較で約101.7%となっている。

(1)入院

①回復期リハビリテーション病棟（南2病棟、中病棟）

脳血管疾患や大腿骨骨折などの急性期治療を終えた後、個々の患者に合わせて寝たきり防止、日常生活動作自立、家庭生活・社会復帰を目標としたリハビリテーションを実施している。ベッドサイドやリハビリ室での機能障害・能力低下へのアプローチ、病棟生活の向上、家庭訪問を通じての家庭復帰、介護支援専門員（ケアマネジャー）への情報提供を通じてこれら目標の達成に努めている。

南2病棟

当年度の平均入院患者数は31.4人（病床利用率75.8%）であった。平均年齢は67.2歳、男性患者が59.7%、疾患別では脳血管障害が最も多く、61.0%を占めた。

退院後の状況は自宅56.8%、施設18.9%、転院20.1%であった。

入退院の状況

入院 164名、 退院 169名

3月31日現在の入院患者数31名（病床42床）

中病棟

当年度の平均入院患者数は23.0人（病床利用率61.4%）であった。平均年齢は64.2歳、男性患者が55.2%、疾患別では脳血管障害が最も多く、56.1%を占めた。

退院後の状況は自宅 62.3%、施設 18.8%、転院 13.7%であった。

入退院の状況

入院 105 名、 退院 117 名

3 月 31 日現在の入院患者数 13 名 (病床 38 床)

②障害者施設等入院基本料算定病棟 (西病棟)

脳卒中後遺症及び認知症を除く肢体不自由者、脊髄損傷及び意識障害患者等に対して、個々の患者に設定したゴールに向けてリハビリテーションを実施している。また、下肢関節等の手術も行っている。

当年度の平均入院患者数は 20.2 人 (病床利用率 60.5%) であった。平均年齢は 59.3 歳、男性患者が 68.8%、脊髄損傷、骨折などの整形外科疾患が多く、これらが 56.5%を占めた。

退院後の状況は自宅 70.7%、施設 7.7%、転院 16.7%であった。

入退院の状況

入院 138 名、 退院 130 名

3 月 31 日現在の入院患者数 29 名 (病床 34 床)

新規入院患者のうち急性期病院等からの紹介は 337 人であり、紹介元医療機関別では香川県立中央病院 149 人、高松市立みんなの病院 64 人、高松赤十字病院 35 人、香川労災病院 20 人、香川大学医学部附属病院 28 人、その他 41 人(高松市内 13 人、県内高松市外 19 人、県外 9 人)であった。

(2) 外来

診療日数 243 日で、外来患者数は延べ 58,594 人であり、一日平均 241.1 人であった。

科別の平均受診者数は整形外科 21.8 人、小児科 24.8 人、内科 13.7 人、脳神経外科 10.4 人、泌尿器科 11.8 人、眼科 12.0 人、耳鼻咽喉科 9.3 人、皮膚科 12.7 人、総合診療科 0.3 人、歯科 35.0 人、リハビリテーション科 117.2 人であった。

(3) 保育事業

医師、看護師、訓練士等の職員確保及び職員の福利厚生の実を目的に、附属保育施設「さくら保育園」の運営を行っている。

保育時間は、月～金 8:00～18:00 とし、訓練士、看護師等の土・日曜日・祝日の勤務に対応できるように月に数回、土・日曜日及び祝日を開園している。また、看護師等の夜勤に対応するため、週 1 回程度、24 時間保育が可能である。

令和 5 年 3 月 31 日現在の月極め利用者は 13 名である。(定員 15 名)

【香川県障害者支援施設たまも園】

障害者総合支援法に基づく生活介護・施設入所支援・短期入所と、地域生活支援事業である日中一時支援の4種の事業を実施した。

事業の実施に当たっては、新型コロナウイルス感染症の感染防止を図るため、県内の感染の状況等に応じ、面会や外出、外泊の自粛要請や、園内活動等の縮小など、利用者の意見も聴きつつ、また、家族等関係者の理解も得ながら、サービスの提供を継続した。

(1) 入所部（生活介護・施設入所支援）

入所利用者への生活介護サービスについては、常時介護を必要とする障害者に、日中、入浴や排泄、食事の介護等を行うとともに、健康管理や身体機能を維持するための訓練、創作活動等の支援を行った。

社会参加の機会の提供として行う外出の支援や他の事業所のサービス利用支援については、感染の状況に応じて調整した。

施設入所支援サービスについては、夜間などに排泄や食事の介護等の支援を行った。

感染防止対策として新規入所希望者の施設見学を一時中止したことなどによって、新たな入所者の確保が難しくなり、生活介護の1日当たりの利用者数は94.2人（前年度95.4人）、施設入所支援の利用者数は94.1人（同95.3人）と、いずれも前年度に比較して減少した。年度末でみると、令和4年度中に6人が退所したものの、コロナ感染症の収束に伴い3月に4名の入所者を確保できたことから、年度内入所者は9人となり、年度末現在の在籍者数は定員を1人下回る99人となった。

(2) 通所部（生活介護）

通所利用者の生活介護サービスについては、家庭など地域で生活する障害者に、日中に、入浴や排泄、食事等の介護を行うとともに、健康管理や身体機能を維持するための訓練、レクリエーション等の支援を行った。

年度末現在の在籍者数は28人（前年度27人）で、1日当たりの利用者数は6.7人（同8.5人）であり、利用者数は前年度に比較して減少した。

これは、感染防止の観点から、受け入れ人数を減少させざるを得なかったこと、さらに、オミクロン株による急激な感染拡大のあった第7波時の8月以降、園内で3回クラスターが発生し、延61日間にわたってサービスの提供を中止したためである。

(3) 短期入所

家庭など地域での生活が継続できるよう、家族等の介護者の支援を受けることができない場合などに、宿泊を伴う支援を行った。

サービスの提供に当たっては、感染防止の観点から、できる限り入所利用者との接触がないようにするため、昼間の居室を通所ルームに変更し、介護等についても通所担当者が行った。

年度末現在の契約者数は51人（前年度52人）であり、1日当たりの利用者数は2.0人（同1.7人）となっており、上記第7波時の影響による減少があったものの、その後、回復し、利用者数は

前年度に比較して増加した。

(4) 日中一時支援

一時的に施設の利用が必要な障害者に、入浴、排泄、食事等の介護を行うとともに、日中における活動の場を提供した。

なお、短期入所と同様に、感染防止の観点から、できる限り入所利用者との接触がないようにするため、居室を通所ルームに変更し、介護等についても通所担当者が行った。

年度末現在の契約者数は33人（前年度36人）であり、1日当たりの利用者数は0.5人（同0.6人）で、利用者数は前年度に比較して微減した。

1.成人支援施設

令和4 年度

表1 事業別 充足状況 他

事業	定員	月平均人数			
		実数	充足率		換算数
			充足率	充足率	
自立訓練(機能)	36	25.5	70.8%	17.5	48.6%
自立訓練(生活)	20	10.0	50.0%	6.8	34.0%
就労移行支援	24	22.7	94.4%	16.0	66.8%
計	80	58.2	72.7%	40.4	50.4%
施設入所支援	40	24.0	60.0%	22.2	55.6%

*) 平均期間は、30日を1ヶ月として算出 (人)

男女別 実人数 (月平均)				年間人数		
男	構成比		女	新規開始	利用	
	構成比	構成比			終了	平均期間*
19.5	76.5%	6.0	23.5%	+17	▲18	19.0ヶ月
8.3	82.5%	1.8	17.5%	+3	▲8	23.0ヶ月
17.4	76.8%	5.3	23.2%	+13	▲17	17.5ヶ月
45.2	77.7%	13.0	22.3%	+33	▲40	—
18.3	76.4%	5.7	23.6%	+14	▲13	17.6ヶ月

注) 純新規/退所者: +28人 ▲35人

表2 支援の実施者別 状況

支援の実施者	自立訓練(機能)		自立訓練(生活)		就労移行支援		計		施設入所支援				
	入所	通所	入所	通所	入所	通所	入所	通所					
高松市	141	58	199	29	55	84	4	181	185	174	294	468	167
丸亀市				11	3	14		9	9	11	12	23	11
坂出市													
普通寺市	23		23					1	1	23	1	24	23
観音寺市													
さぬき市				10		10				10		10	10
東かがわ市	24		24					19	19	24	19	43	24
三豊市	23		23							23		23	23
土庄町		1	1					12	12		13	13	
小豆島町								12	12		12	12	
三木町	7	7	14					7	7	7	14	21	7
直島町													
宇多津町	3	8	11					5	5	8	8	16	1
綾川町								2	2		2	2	
琴平町								12	12		12	12	
多度津町								8	8		8	8	
まんのう町													
その他	11		11	12		12				23		23	22
計	232	74	306	62	58	120	9	263	272	303	395	698	288

【算出方法】

- 年間延べ人数 ...
月度毎 利用者数の年間計 (注: 日割りではない)
例) 利用期間 5/20~9/5 の場合、5ヶ月利用で5人
- 月平均人数 ...
年間延べ人数 ÷ 12ヶ月
- 平均年齢 ...
(各年齢 × 年間延べ人数) の合計 ÷ 年間延べ人数計
- 利用終了日が、年度末(3/31)の場合、当該年度での利用終了者としてカウント

表3 主たる障害/年齢別 状況

主たる障害 (重複なし)	自立訓練(機能) * 平均: 51.2歳							自立訓練(生活) * 平均: 41.2歳							就労移行支援 * 平均: 36.5歳									
	~19歳	20~29	30~39	40~49	50~59	60~64	65歳~	計	~19歳	20~29	30~39	40~49	50~59	60~64	65歳~	計	~19歳	20~29	30~39	40~49	50~59	60~64	65歳~	計
身体/肢体不自由		8	121	90	51	7	277			7	11	12			30		8	13	13	41	12			87
身体/視覚																				4				4
身体/聴覚																		7						7
身体/言語機能等		2		15			17																	
身体/内部																					2			2
知的																	47	29						76
精神/精神																			3	12	3			18
精神/発達									6	12						18	10	10						20
精神/高次脳				12			12		12	6	27	27				72			21	25				46
難病																			12					12
その他																								
計		10	121	117	51	7	306	6	24	13	38	27	12		120	57	66	16	52	69	12			272

主たる障害 (重複なし)	計 * 平均: 49.9歳						
	~19歳	20~29	30~39	40~49	50~59	60~64	65歳~
身体/肢体不自由	8	28	145	131	75	7	394
身体/視覚			4				4
身体/聴覚	7						7
身体/言語機能等		2	15				17
身体/内部			2				2
知的	47	29					76
精神/精神		3	12	3			18
精神/発達	16	22					38
精神/高次脳	12	6	48	64			130
難病	12						12
その他							
計	63	90	39	211	213	75	698

表4 疾病別 状況

疾病 (重複あり: max3)	計 (年間延べ人数)																						
	脳血管疾患	外傷性脳損傷	脳性マヒ	他脳器質	脊髄損傷/疾患	頸髄損傷	骨関節疾患	切斯・変形	臓器疾患	眼疾患/眼外傷	耳疾患/耳外傷	他の身体疾患/損傷	難病	内因性精神疾患	外因性精神疾患	心因性精神疾患	高次脳	発達/知的無	発達/知的有	染色体	他の精神発達遅滞	他の精神疾患	
自立訓練(機能)	232	12			28	12		12				10		13			19						
自立訓練(生活)	67	19		4				7									27	18					
就労移行支援	91	2	8	12	13	7		6	4				12			1	1	14	56		5	15	
計	390	33	8	16	41	19		12	13	4		10	12	13		1	47	32	56		5	15	
施設入所支援	212	24			15	12		11				9		12			46						

注) 難病は、身体面・視覚などの難病を除く

表5 障害等級別 状況 (手帳は重複あり)

(年間延べ人数)

事業	手帳等級	身体						計	知的				計	精神				(参考)手帳無し			
		1級	2級	3級	4級	5級	6級		○A	A	○B	B		1級	2級	3級	計	身体	知的	精神	全<無
自立訓練(機能)		146	40	29	1			216							12		12	31	256	256	31
自立訓練(生活)		1	15	11	14			41							23		23	79	110	87	67
就労移行支援		37	22					59				74	74		25	15	40	156	144	134	80
計		184	77	40	15			316				74	74		60	15	75	266	510	477	178
施設入所支援		118	22	36				176							23		23	67	242	231	67

表6 障害支援区分別 状況

(年間延べ人数)

事業	障害支援区分(利用開始時)						無
	1	2	3	4	5	6	
自立訓練(機能)		8	5	12	12		269
自立訓練(生活)							120
就労移行支援							254
計		8	5	12	12		643
施設入所支援			4	9			275

表7 利用経路

(年間延べ人数)

利用経路(利用前の居住)	自立訓練(機能)	自立訓練(生活)	就労移行支援	計
当センター病院	152	37	49	238
他病院	141	41	46	228
在宅	13	42	167	222
当施設				
他施設				
*				
計	306	120	262	688

表8 利用終了後の生活拠点

(人)

生活拠点	自立訓練(機能)	自立訓練(生活)	就労移行支援	計(正味)
家庭復帰	6		1	6
単身生活				1
GHその他 地域生活	3	2		5
障害者施設				
老人系施設	1			1
入院				
その他				
死亡				
*				
*				
計	10	2	1	13

注)施設入所者に限定、尚、事業計と正味との差は、入所のみ退所者

表9 利用終了後の日中活動

(人)

日中活動	自立訓練(機能)	自立訓練(生活)	就労移行支援	計(正味)
就職	1		9	9
復職	2		2	3
A型	1			1
B型	4	2		6
事業内変更	1	3	1	4
他障害福祉サービス	1		1	2
介護福祉サービス	4			4
地域参加・家事・趣味活動	1			1
学校				
その他	3	1	2	6
死亡				
*				
計	18	6	15	36

(他事業利用中)

* 就職数(就職&復職) 3 11 12
就職率 16.7% 73.3% 33.3%

2.福祉センター

<表1>利用状況(センター利用分のみで、外部施設での実施事業は除く)

令和4年4月～令和5年3月

令和4年度

(単位:人)

区 分		体 育 関 係					教 養 ・ 文 化 関 係						
		体 育 館	グラウンド	アーチェリー	プ ー ル	計	研 修 室	会 議 室	図 書 室	調理実習室	つ ど い	計	
利用延数	障害者	個 人	1,049 (315)	64 (24)	132 (17)	3,801 (1,480)	5,046 (1,836)						
		グループ	7,100 (2,206)	1,124 (532)		840 (370)	9,064 (3,108)	2,955 (923)	3,795 (941)		317 (110)		7,067 (1,974)
		計	8,149 (2,521)	1,188 (556)	132 (17)	4,641 (1,850)	14,110 (4,944)	2,955 (923)	3,795 (941)		317 (110)		7,067 (1,974)
	関係者	個 人	15				15						
		グループ	77	26		10	113	9,880	5,690		777		16,347
		計	92	26		10	128	9,880	5,690		777		16,347
	一般	個 人	42		110	70	222						
		グループ	1,632				1,632	1,186	367		22		1,575
		計	1,674		110	70	1,854	1,186	367		22		1,575
	合 計		9,915 (2,521)	1,214 (556)	242 (17)	4,721 (1,850)	16,092 (4,944)	14,021 (923)	9,852 (941)		1,116 (110)		24,989 (1,974)
総 計												41,081 (6,918)	

注:()内は介護者で、内数である。

(1) 令和4年度地域交流科事業実績

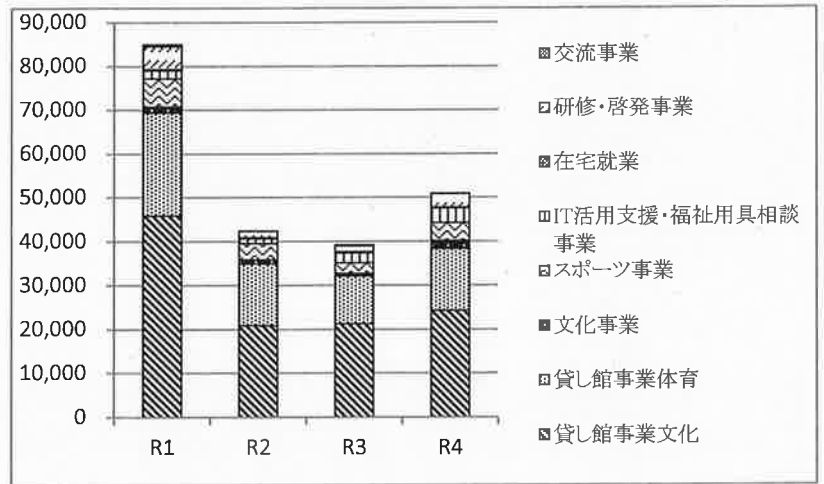
<表2>事業別対象者数比較

(単位:人)

	R1	R2	R3	R4
貸し館事業文化	45,864	20,876	21,264	24,212
貸し館事業体育	23,486	13,971	10,851	14,062
文化事業	1,404	1,017	610	1,820
スポーツ事業	6,445	3,642	2,403	4,059
IT活用支援・福祉用具相談事業	1,847	1,139	2,234	3,431
在宅就業	262	189	229	135
研修・啓発事業	5,274	1,481	1,361	3,135
交流事業	434	118	220	93
合計	85,016	42,433	39,172	50,947

<図1>事業別対象者数比較

(単位:人)

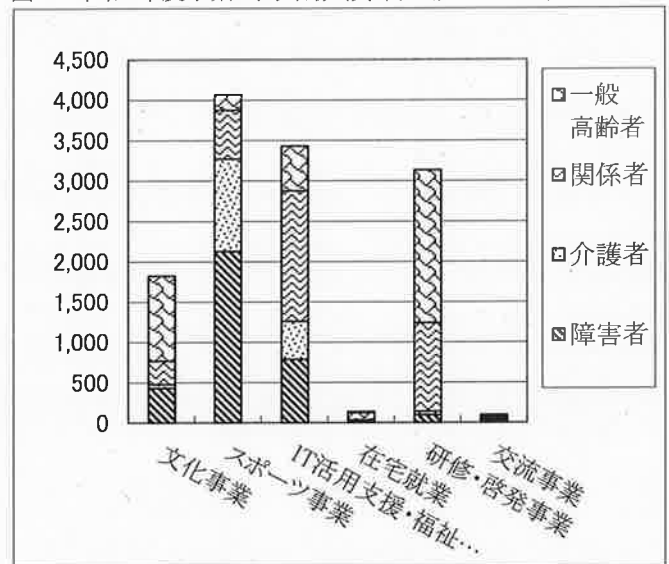


<表3> 令和4年度事業 対象者数(貸館除く)

	障害者	介護者	関係者	一般高齢者	計
文化事業	431	45	287	1,057	1,820
スポーツ事業	2,124	1,145	604	186	4,059
IT活用支援・福祉用具	787	470	1,617	557	3,431
在宅就業	30	4	89	12	135
研修・啓発事業	93	44	1,098	1,895	3,130
交流事業	31	21	28	13	93
計	3,496	1,729	3,723	3,720	12,668

<図2> 令和4年度事業 対象者数(貸館除く)

(単位:人)



<表4> 事業 対象者別比較(貸館除く)

(単位:人)

	障害者	介護者	関係者	一般高齢者	計
R1	5,321	2,486	5,373	2,486	15,666
R2	3,005	1,413	2,750	418	7,586
R3	2,636	1,145	2,409	867	7,057
R4	3,496	1,792	3,723	3,720	12,668

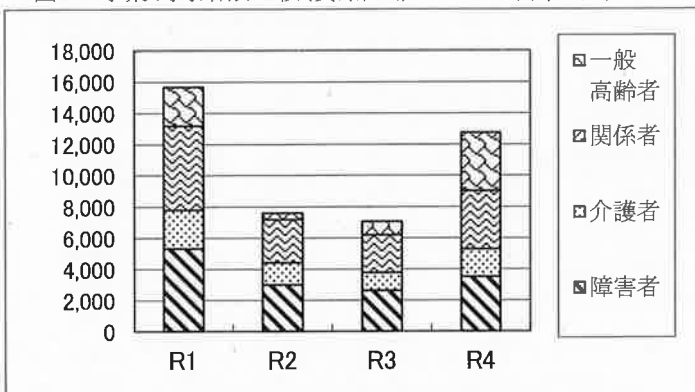
<表5> 事業 実施場所別比較(貸館除く)

(単位:人)

	内	外	計
R1	9,833	5,833	15,666
R2	5,450	2,136	7,586
R3	5,171	1,886	7,057
R4	6,115	6,553	12,668

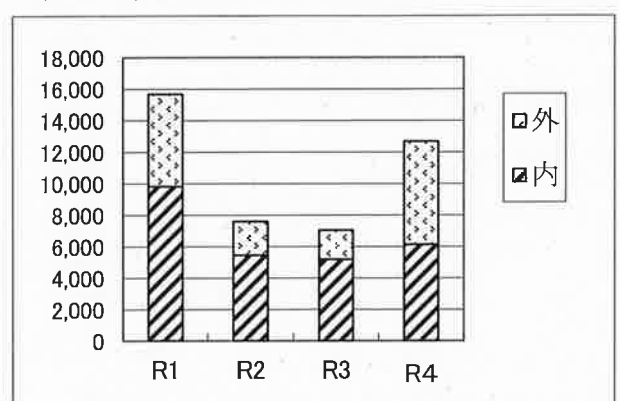
<図3> 事業 対象者別比較(貸館除く)

(単位:人)



<図4> 事業 実施場所別比較(貸館除く)

(単位:人)





Year	Q1	Q2	Q3	Q4	Total
2023	10	15	12	25	62
2024	12	18	15	20	65
2025	15	20	18	25	78
2026	18	25	22	30	95
2027	20	28	25	35	110
2028	22	30	28	40	120
2029	25	35	30	45	135
2030	28	40	35	50	153



Year	Q1	Q2	Q3	Q4	Total
2023	5	10	15	20	50
2024	7	14	21	28	70
2025	10	20	30	40	100
2026	12	24	36	48	120
2027	15	30	45	60	150
2028	18	36	54	72	180
2029	20	40	60	80	200
2030	22	44	66	88	220

Year	Q1	Q2	Q3	Q4	Total
2023	10	15	12	25	62
2024	12	18	15	20	65
2025	15	20	18	25	78
2026	18	25	22	30	95
2027	20	28	25	35	110
2028	22	30	28	40	120
2029	25	35	30	45	135
2030	28	40	35	50	153

Year	Q1	Q2	Q3	Q4	Total
2023	5	10	15	20	50
2024	7	14	21	28	70
2025	10	20	30	40	100
2026	12	24	36	48	120
2027	15	30	45	60	150
2028	18	36	54	72	180
2029	20	40	60	80	200
2030	22	44	66	88	220



(2) 相談支援

①香川県発達障害者支援センター『アルプスかがわ』

事業内容			実績
1. 相談支援・発達支援 (※主に子どもに対する支援)	(1) 実支援人数・延支援件数	実支援人数	127 人
		延支援件数	356 件
	(2) 医学的診断、心理学的判定	実診断人数	4 人
		実判定人数	11 人
	(3) 夜間等の緊急時保護 行動障害による一時保護	実支援人数	0 人
		延支援件数	0 件
	(4) 相談支援・発達支援に伴う情報共有等 (調整会議)		26 件
(5) 相談支援・発達支援に伴う関係機関職員への助言 (機関コンサルテーション)		76 件	
2. 相談支援・就労支援 (※主に成人に対する支援)	(1) 実支援人数・延支援件数	実支援人数	138 人
		延支援件数	323 件
	(2) 相談支援・就労支援に伴う情報共有等 (調整会議)		9 件
	(3) 相談支援・就労支援に伴う関係機関職員への助言 (機関コンサルテーション)		36 件
3. 地域住民等に対する普及啓発	(1) パンフレットの作成等		23 件
	(2) 地域住民向け講演会の開催等		3 回
4. 関係施設及び関係機関に対する 普及啓発及び研修	(1) 主催または共催で企画した研修	実施回数	19 回
		延参加人数	867 人
	(2) 外部から講師依頼を受けた研修 (講師派遣)	実施回数	73 回
		延参加人数	2498 人
	(3) 教育関係者との合同研修会 ((1) 及び (2) の再掲)	実施回数	20 回
		延参加人数	677 人
5. 関係施設・関係機関等の連携	(1) 連絡協議会の開催状況	実施回数	17 回
	(2) 協議会等への参加状況 (障害者総合福祉法第89条に基づく)	参加回数	32 回
	(3) その他の協議会への参加状況	参加回数	62 回
6. 職員の研修派遣状況		参加回数	28 回

No.	Date	Particulars	Amount
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			
33			
34			
35			
36			
37			
38			
39			
40			
41			
42			
43			
44			
45			
46			
47			
48			
49			
50			
51			
52			
53			
54			
55			
56			
57			
58			
59			
60			
61			
62			
63			
64			
65			
66			
67			
68			
69			
70			
71			
72			
73			
74			
75			
76			
77			
78			
79			
80			
81			
82			
83			
84			
85			
86			
87			
88			
89			
90			
91			
92			
93			
94			
95			
96			
97			
98			
99			
100			

②高次脳機能障害支援普及事業

令和4年4月～令和5年3月

<表2> 相談実人数(単位:人)

新規	継続	計
38	33	71

<表3> 性別人数(単位:人)

男	女	不明	計
51	18	2	71

<表4> 相談件数(方法別)(単位:人)

電話※	来所	訪問	合計
261	28	60	349

※FAX、電子メールを含む

<表5> 普及啓発事業件数(単位:件)

講演会	研修会	講師派遣	コンサルテーション	当事者会参加
2	3 (参加者78名)	4	165	6

③障害者生活支援センターたかまつ

令和4年4月～令和5年3月

○委託事業

<表6> 相談実人数(単位:人)

相談実人数	
新規	53
継続	32
計	85

<表7> 相談件数(形態別)(単位:人)

相談実件数							
訪問	来所	電話※	同行	個別支援会議	関係機関	その他	合計
34	29	254	13	3	59	505	897

※FAX、電子メールを含む (全相談延べ件数 6,022件)

<表8> 相談実人数(障害別)

(単位:人)

	肢体	視覚	聴覚・言語	内部	知的	精神	重心	身体・知的	身体・精神	知的・精神	身体・知的・精神	高次脳	発達障害	難病	合計
新規	19	3	3	1	5	3	0	4	2	0	1	7	1	0	49
継続	17	7	3	2	7	1	0	7	1	0	0	1	1	4	51
計	36	10	6	3	12	4	0	11	3	0	1	8	2	4	100

(重複選択がある為、表6の合計人数とは一致しない)

<表9> サービス等利用計画作成実績(単位:人)

計画相談		モニタリング	
障害児	39	障害児	39
障害者	234	障害者	407
計	273	計	446

<表10> 相談内容別の件数

(単位:件)

	日常生活	家計・経済	就労	保育・療育・教育	健康・医療	家族関係・人間関係	社会参加・余暇活動	福祉サービス利用	障害や病状理解	精神的不安	権利擁護	その他	計
件数	390	38	73	87	403	55	65	3,807	166	176	38	517	5,815

○高松市障がい者基幹相談支援センター地域拠点

<表11> 基幹相談支援センター障害別相談者累積人数

	身体	知的	精神	難病	高次脳	発達	その他	小計	合計
障害児	0	63	8	2	0.5	95.5	54	223	557
障害者	0	62.5	145	7	40	45.5	27	327	
高齢者	0	0	0	0	5	0	2	7	

<表12> 相談元別実人数

地域住民	自治体・生活困窮	保健	障害福祉	医療機関	教育	高齢福祉	その他	合計
7	5	10	88	18	13	2	41	184

<表13> 地域体制整備事業

(単位:件)

	PR訪問	地域会議	合計
回数	6	24	30

1	2	3	4
5	6	7	8

9	10	11	12
13	14	15	16

17	18	19	20
21	22	23	24

25	26	27	28
29	30	31	32

33	34	35	36
37	38	39	40

41	42	43	44
45	46	47	48

49	50	51	52
53	54	55	56

57	58	59	60
61	62	63	64

65	66	67	68
69	70	71	72

(3) 高松市障がい者基幹相談支援センター中核拠点

令和4年4月～令和5年3月
(単位：人)

1) 中核拠点における体制整備

●体制整備内容

緊急時後方支援	緊急時体制整備	協議会運営	研修準備	研修回数	支援体制構築	特定確保	委託地域後方	情報発信共有	ネットワーク
40	301	1,629	486	60	271	112	598	322	98
社会資源	社会生活力	地域移行	体験の機会場確保	ピア	アウトリーチ	権利擁護	その他		
17	40	110	26	553	25	443	10		

●受付内容

訪問	電話	来所	メールFAX	その他
274	1,615	2,289	254	709

2) 中核拠点における個別支援

新規合計	新規紹介元							
	医療機関	司法触法	児童	高齢	保健	障害福祉	地域住民	その他
264	25	17	19	10	4	129	13	47

実人数 合計	障がい種別						
	身体	知的	精神	難病	高次脳	発達	その他
1,222	142	245	424	28	5	204	174

実人数 合計	対象者別		
	障害児	障害者	高齢者
1,222	284	887	51

延べ人数	受付形態別				
	訪問	電話	来所	メールFAX	その他
4,893	616	3,717	172	337	51

延べ人数	相談地区									
	松島	築地	新塩屋	四番丁	二番丁	日新	亀阜	女木	その他	
	470	310	205	115	284	141	637	90	2,641	
延べ人数	相談種類									
	福祉サービス	社会資源	社会生活力	ピア	権利擁護	専門機関	緊急時対応	体験の機会	ケア会議	その他
	1,861	114	142	32	25	936	22	1	67	1,693

延べ件数	体制整備							
	協議会	情報	特定	資源	会議	研修	人材	その他
365	19	4	17	107	64	105	27	22

延べ件数	事業所運営			
	会議	出張	研修	その他
3,098	1,488	47	17	1,546

Energy

Energy

Year	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999
...

...
-----	-----	-----	-----

Energy

Year	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999
...

...
-----	-----	-----	-----

...
-----	-----	-----	-----

Year	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999
...

...
-----	-----	-----	-----

3.こども支援施設 4.療養介護施設 5.こども発達支援センター

<表1>入・退所者数

令和4年4月～令和5年3月 (単位:人)

	こども支援施設		療養介護施設		計	こども発達支援センター		計	合計
	男	女	男	女		男	女		
入所	1		1		2	1	2	3	5
退所		1			1		2	2	3

<表2>退所後状況

令和4年4月～令和5年3月 (単位:人)

区分		こども支援施設		療養介護施設		計	こども発達支援センター		計	合計
		男	女	男	女		男	女		
家庭復帰	自宅									0
	地元校へ									0
	養護学校へ							2	2	2
	施設通所									0
	こども支援施設からこども発達支援センター									0
施設入所	こども発達支援センターからこども支援施設									0
	障害児入所施設		1			1				1
	障害者支援施設									0
	療養介護施設へ									0
	転院									0
	死亡									0
	計	0	1	0	0	1	0	2	2	3

<表3>地域別・性別・区分別利用状況 令和5年3月31日現在 (単位:人)

区分	こども支援施設		療養介護施設		計	こども発達支援センター		計	合計
	男	女	男	女		男	女		
高松市部	3	2	8	9	22	5	6	11	33
高松市外	3	2	8	2	15	1	2	3	18
県外			1		1			0	1
合計	6	4	17	11	38	6	8	14	52

<表4>年齢別・性別・区分別利用状況 令和5年3月31日現在 (単位:人)

区分		0歳	1歳	2歳	3歳	4~5歳	6~9歳	10~14歳	15~19歳	20~29歳	30歳以上	計
こども支援施設	男			1			2	2	1			6
	女							3	1			4
療養介護施設	男								1	4	12	17
	女									2	9	11
計		0	0	1	0	0	2	5	3	6	21	38
こども発達支援センター	男				3	3						6
	女				1	5	2					8
計		0	0	0	4	8	2	0	0	0	0	14
合計		0	0	1	4	8	4	5	3	6	21	52

<表5>疾患別利用状況 令和5年3月31日現在 (単位:人)

区分	こども支援施設	療養介護施設	こども発達支援センター	計
脳性麻痺	1	18	1	20
ペルテス				0
頭部外傷	1			1
発達遅延	2		3	5
骨折				0
脳血管障害	1			1
脳・脊髄炎		5		5
脊髄損傷				0
骨形成不全			1	1
その他	5	5	9	19
計	10	28	14	52

<表6>こども発達支援センター利用数 令和4年4月~令和5年3月(単位:人)

区分	患者数	診療日数(日)	日平均
こども発達支援センター	717	243	3.0

6.リハビリテーション病院

<表1>入・退院者数

令和4年4月～令和5年3月(単位:人)

	西病棟			中病棟			南2病棟			計
	男	女	小計	男	女	小計	男	女	小計	
入院	95	43	138	58	47	105	98	66	164	407
退院	84	46	130	64	53	117	106	63	169	416

<表2>年齢別・性別入院患者状況

令和4年4月～令和5年3月

	西病棟		中病棟		南2病棟		計	患者比率
	男	女	男	女	男	女		
19歳以下	10	2	1	2	0	0	15	3.7%
20～29歳	4	5	0	3	3	2	17	4.2%
30～39歳	5	0	2	2	4	0	13	3.2%
40～49歳	4	2	5	5	10	8	34	8.4%
50～59歳	20	2	12	5	14	7	60	14.7%
60～69歳	20	8	11	10	21	5	75	18.4%
70～79歳	22	13	12	11	28	27	113	27.8%
80歳～	10	11	15	9	18	17	80	19.7%
合計	95	43	58	47	98	66	407	100.0%

<表3>疾患別患者状況

	西病棟	中病棟	南2病棟	計
脳血管疾患	10	59	100	169
脳挫傷	11	4	8	23
脳・脊髄炎	7	1	2	10
脊髄損傷	19		5	24
骨折	30	23	27	80
切断	13		1	14
変形性股関節症	3	1	3	7
その他整形疾患	32	13	6	51
神経疾患	3			3
褥瘡				0
廃用	7	1	3	11
その他	3	3	9	15
計	138	105	164	407

<表4>入院時状況

令和4年4月～令和5年3月

		西病棟	中病棟	南2病棟	計
医療機関	中央病院	40	44	65	149
	高松赤十字	11	11	13	35
	香川大学	8	5	15	28
	みんなの病院	11	21	32	64
	労災病院		5	15	20
	他市内	5	3	5	13
	他県内	6	5	8	19
	県外	2	1	6	9
転棟	11	4	2	17	
自宅	40	6	3	49	
施設	4	0		4	
計	138	105	164	407	

<表5>退院後状況

令和4年4月～令和5年3月

	西病棟	中病棟	南2病棟	計
自宅	92	73	96	261
成人支援施設	1	3	4	8
介護老人保健施設	1	5	6	12
その他施設	8	14	22	44
転院	22	16	34	72
転棟	6	6	7	19
死亡				0
その他				0
計	130	117	169	416

<表6>在院患者数

令和5年3月31日時点

	西病棟	中病棟	南2病棟	計
在院患者数	29	13	31	73

<表7>外来・科別患者数

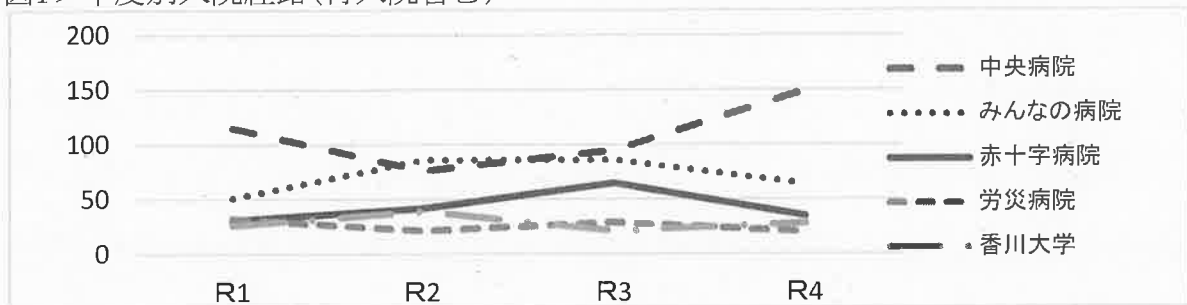
令和4年4月～令和5年3月

	患者数	診療日数	一日平均
整形外科	5,297	243	21.8
小児科	5,976	241	24.8
内科	3,223	236	13.7
脳神経外科	2,484	240	10.4
泌尿器科	283	24	11.8
眼科	2,814	234	12.0
耳鼻咽喉科	888	96	9.3
皮膚科	623	49	12.7
総合診療科	15	46	0.3
リハビリテーション科	28,487	243	117.2
歯科	8,504	243	35.0
計	58,594	243	241.1

<表8>年度別入院経路(再入院含む)

	R1	R2	R3	R4
中央病院	115	76	95	149
赤十字病院	31	42	65	35
香川大学	26	39	21	28
みんなの病院	51	86	86	64
労災病院	32	21	29	20
他市内	23	16	25	13
他市外	34	26	35	19
県外	16	9	5	9
自宅・施設・転棟	84	75	74	70
合計	412	390	435	407

<図1>年度別入院経路(再入院含む)



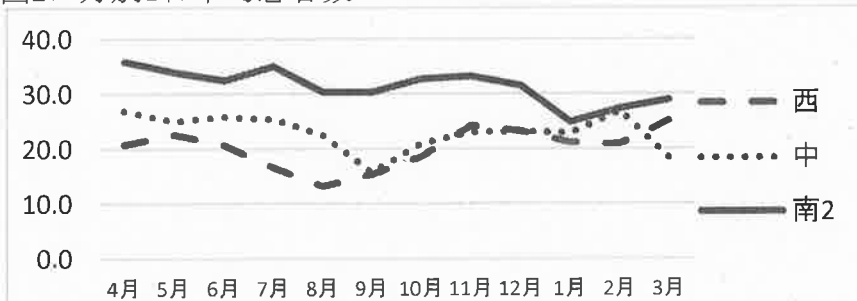
<表9>年度別病床稼働率

	R1	R2	R3	R4
西	75.3%	70.4%	62.5%	60.5%
中	66.3%	63.1%	64.8%	61.4%
南2	81.2%	71.6%	77.4%	75.8%
合計	74.5%	68.4%	68.8%	66.4%

<表10>平均患者推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
西	20.8	22.6	20.7	16.6	13.2	15.4	18.6	24.2	23.2	21.1	20.9	25.2	20.2
中	26.9	25.0	25.8	25.4	22.5	15.7	21.0	23.0	23.2	22.8	26.9	18.5	23.0
南2	35.9	34.0	32.4	35.0	30.3	30.3	32.7	33.2	31.5	24.9	27.4	28.9	31.4
合計	83.6	81.6	78.9	77.0	66.0	61.4	72.3	80.4	77.9	68.8	75.2	72.6	74.6

<図2>月別1日平均患者数



主なコロナ発生状況(患者/職員)

8/2	西	9名/4名
8/29	中	1名/3名
12/15	中	4名/2名
12/26	西	3名/2名
12/27	南	4名/3名
2/8	中	5名/0名

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
61	62	63	64	65	66	67	68	69	70
71	72	73	74	75	76	77	78	79	80
81	82	83	84	85	86	87	88	89	90
91	92	93	94	95	96	97	98	99	100

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
61	62	63	64	65	66	67	68	69	70
71	72	73	74	75	76	77	78	79	80
81	82	83	84	85	86	87	88	89	90
91	92	93	94	95	96	97	98	99	100

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
61	62	63	64	65	66	67	68	69	70
71	72	73	74	75	76	77	78	79	80
81	82	83	84	85	86	87	88	89	90
91	92	93	94	95	96	97	98	99	100



1. 1. 1. 1. 1.
 2. 2. 2. 2. 2.
 3. 3. 3. 3. 3.
 4. 4. 4. 4. 4.
 5. 5. 5. 5. 5.

生活介護・施設入所支援(入所部)利用者の現況

令和5年3月31日現在

○入退所の状況

項目		年度											
		23	24	25	26	27	28	29	30	元	2	3	4
年度中	入所者数	2	8	5	4	6	7	10	3	6	4	5	9
	退所者数	2	8	6	3	6	9	8	3	6	4	9	6
年度末在籍者数		100	100	99	100	100	98	100	100	100	100	96	99

項目		月別											
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
月初日現在在籍者数		96	97	97	97	96	97	96	97	95	96	95	96
令和4年度	入所者数	1	0	0	0	1	0	0	0(1)	1	0	1	4
	退所者数	0	0	0	1	0	1	0	2	0	1	0	1

※()書きは外数で初日利用開始

○市町別入所者状況

市名	男	女	計	町名	男	女	計
高松市	41	30	71	小豆島町	2	3	5
丸亀市	2	1	3	土庄町	1	1	2
坂出市	1	2	3	三木町	0	1	1
さぬき市	2	2	4	綾川町	2	0	2
東かがわ市	0	1	1	まんのう町	1	0	1
三豊市	2	3	5	直島町	0	0	0
観音寺市	0	1	1				
市部計	48	40	88	郡部計	6	5	11
合計					54	45	99

○在籍者年齢

	男	女	計
18～29	5	1	6
30～39	4	3	7
40～49	5	6	11
50～59	11	13	24
60～69	17	13	30
70～79	10	5	15
80以上	2	4	6
平均	56.7	59.1	57.8

○重複障害の状況

	男	女	計
知的障害	22	21	43
言語障害	9	7	16
視覚障害	2	1	3
聴覚障害	0	2	2
精神障害	1	1	2
内部障害	2	2	4
高次脳機能障害	9	2	11
認知症(疑い含む)	1	0	1
身体障害	0	2	2
合計	46	38	84

○身体障害者手帳等級

	男	女	計
1級	42	35	77
2級	7	3	10
3級	2	0	2
4級	1	2	3
なし	2	5	7
合計	54	45	99

○障害支援区分

	男	女	計
区分6	41	34	75
区分5	11	8	19
区分4	2	3	5
区分3	0	0	0
合計	54	45	99

○障害の原因別病名

	脳性麻痺	頭部外傷	脳血管障害	脊髄・頸椎損傷	関節リウマチ	視力障害	指定難病	知的障害	その他	計
男	23	6	5	6	1	0	1	3	9	54
女	22	1	2	1	2	2	3	6	6	45
計	45	7	7	7	3	2	4	9	15	99

生活介護(通所部)利用者の現況

令和5年3月31日現在

○利用の状況

項目		年度											
		23	24	25	26	27	28	29	30	元	2	3	4
年度中	利用開始者数	2	6	3	3	2	3	6	6	3	1	3	3
	利用終了者数	1	2	2	1	4	2	7	2	3	0	3	2(1)
年度末在籍者数		17	21	22	24	22	23	22	26	26	27	27	28

※()書きは外数で末日利用終了

項目		月別											
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
月初日現在在籍者数		27	27	26	27	27	28	28	29	29	28	28	28
令和4年度	利用開始者数	0	0	0	0(1)	1	0	1	0	0	0	0	0
	利用終了者数	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1

※()書きは外数で初日利用開始

○市町別利用者状況

市名	男	女	計	町名	男	女	計
高松市	13	12	25	まんのう町	0	1	1
丸亀市	1	0	1				
坂出市	1	0	1				
市部計	15	12	27	郡部計	0	1	1
				合計	15	13	28

○利用者年齢

	男	女	計
18~29	3	2	5
30~39	3	5	8
40~49	5	1	6
50~59	2	3	5
60~64	1	2	3
65以上	1	0	1
平均	42.4	43.2	42.8

○重複障害の状況

	男	女	計
知的障害	6	9	15
言語障害	1	1	2
聴覚障害	0	1	1
高次脳機能障害	2	0	2
身体障害	1	0	1
精神障害	0	1	1
合計	10	12	22

○身体障害者手帳等級

	男	女	計
1級	10	9	19
2級	5	3	8
なし	0	1	1
合計	15	13	28

○障害支援区分

	男	女	計
区分6	12	10	22
区分5	2	1	3
区分4	1	2	3
区分3	0	0	0
合計	15	13	28

○障害の原因別病名

	脳性麻痺	頭部外傷	脳血管障害	脊髄損傷 頸椎損傷	関節リウマチ	難病	知的障害	その他	計
男	6	1	2	0	0	1	1	4	15
女	6	0	1	0	0	1	1	4	13
計	12	1	3	0	0	2	2	8	28